

ABEST21 eNEWS January 2009, No.6

ABEST21 年頭の挨拶

=====

新年おめでとうございます。

昨年は経営分野専門職大学院の認証評価事業が本格的に始まり、また文部科学省の大学評価の委託事業に伴う調査研究活動が積極的に会員校の協力により行われ成果を公表することができました。会員皆様のご協力の賜と感謝いたしております。

今年は、3月に認証評価の最終審査が認証評価委員会で行われ、その成果を社会に公表されます。認証評価の審査を一巡しましたところでいろいろと改善すべき問題点の把握ができました。4月には認証評価基準の改正及び認証評価プロセス等の改善をし、専門職大学院だけでなく広く経営教育をしている大学院を対象に認証評価事業を展開していきたいと考えています。

企業ニーズの国際比較の研究は、現在、経営委員会を中心に教育プログラムの基本設計をも視野に入れて検討を始めています。昨年の11月には企業ニーズの調査研究成果を“Improving Quality of Management Education”の題名で出版いたしました。3月の「企業ニーズの国際比較」の国際シンポジウムで国際比較の成果を発表していきたいと考えています。

まだまだ非力ではありますが、私どもの意図するところをご理解いただき、倍旧のご支援ご鞭撻をお願いする次第であります。

本年もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

ABEST21 理事長 伊藤文雄

ABEST21 認証評価ニュース

=====

受審校より提出されました「自己点検評価報告 (Self-Evaluation Report)」の実質的な審査が開始されました。各受審校に対して専門審査小委員会「(Peer Review Team)」が組織され、昨年の12月19日にH専門職大学院の現地調査が行われました。現地調査の内容は、先ず、事前に通知しておいた質問事を中心に質疑応答し、教育研究環境の諸施設設備を確認し、そして学生とのインタビューで終了いたしました。当日、このPeer Review Teamには2名の外国人委員が現地調査に加わりましたので、自己点検評価報告の質疑応答および学生インタビューはほとんど国際語である英語で行いました。当該専門職大学院の教育の質改善のために、改善課題は何かを抽出する自己点検評価のギャップ分析について忌憚りの無い意見交換が行われ、充実感に溢れる現地調査でありました。新年の1月6日にはT専門職大学院のPeer Review Teamの委員会が開催され、テレビ会議システムを利用して、外国人委員が米国及び中国から委員会に参加されます。1月9日にはK専門職大学院の現地調査、1月14日にはT専門職大学院の現地調査そして1月15日にはA専門職大学院の現地調査が予定され、審査はいよいよ佳境に入ってきました。

ABEST21 Research Projec-2(企業ニーズ)-韓国

=====

韓国での調査はソウル国立大学校経営大学が担当されました。調査票は、241社に送られ、その結果33社の協力を得、有効回答率は13.7%でありました。回答企業の業種は、製造業が33%、IT関係18%、金融・保険が9%、その他が40%でありました。回答企業の76%は国内企業で、海外に支店・工場を持つ企業は24%に留まりました。MBA取得者が企業価値向上に寄与しているとする回答率は66%で、これに対して、MBAプログラムが企業ニーズに一致するとした回答率は52%に留まりました。また、回答企業の68%が、従業員がマネジメントについて学ぶことについての経済的支援体制を有していました。MBA取得の従業員に対しては、幅広い知識とマネジメントの理解力(24%)、戦略的で分析力のある思考(10%)、問題解決能力(6%)、幅広い人脈(6%)、専門性(6%)の点で評価されていました。その一方、退職をする、約束を守らない(29%)、過大な給与の要求(26%)、他の従業員と敵対する(19%)、過度の論理的・非現実的言動(13%)の点が問題としてあがっていました。MBA取得者に対して回答企業の過半数が期待した力量は、「リーダーシップ能力」、「チームビルド能力」、「意思決定能力」、「独創性とリスクテイク能力」、「創造性」、「行動志向能力」でありましたが、いずれも、21~27%の期待値は他国と比べ低いものであり、それに対する観測値も期待値を下回るものでした。それに対して企業の期待値がそれほど高くない「問題解決能力」(18%)「戦略思考能力」(15%)に対して、観測された値は、それぞれ、42%、46%と期待値を大幅に超える値となっております。また、期待値6%の「分析思考能力」の観測値は52%と非常に高いものでありました。ビジネススクールのマネジメント教育に対する企業ニーズとして、機能的な専門知識の強化、グローバルな能力の構築、カリキュラムにおける更なる「リーダーシップ」と「チームワーク」の強化、より戦略的で計画的なカリキュラムが求められておりました。また、MBA取得者はビジネス戦略を開発実行し、戦略的な判断能力、進んだビジネス技術の導入、新しい発展力、価値ある人脈を通じて、企業の発展に貢献していくとみられておりました。また、欧米のビジネススクールと比較して、自国の国内ビジネススクールは教育の質の面で劣っていると評価されておりました。長所としては、国内の企業の状況をよく認識しており、費用が安い、英語で話す必要がない、仕事を中断することなく通学でき、学位取得が簡単でありました。短所としては、グローバルな能力や国際精神の欠如、外国語を自由に操れない、実務的な教育の欠如、教材や授業方法が時代遅れであるという指摘もありました。総体的に中国と比較しても、企業からの評価は低く、日本との共通点が見出されるものでした。

以上